

代表質問(要旨)



議員 長谷川 修平
進 市 選 出
民 立 一 括 方式

多選禁止条例

議員 今回の知事選では多選の是非が争点となった。知事は選挙戦を通じて、多選禁止条例の制定を訴えてきた。制定に当たっては、その制限する多選の期数が重要なポイントであると考えられているが、所見は。

知事 これまでの国会での議論や他県の条例の規定などを踏まえると、三期または四期が一つの目安になるが、現時点で明確に答えるまでには検討が進んでいない。このため、外部有識者による検討も踏まえ、一期四年の任期中に条例化を図っていく。



議員 八島 功男
明 市 選 出
公 土 浦 一 括 方式

来年度予算要求の方針

議員 来年度予算編成を展望し、シーリングと新知事としての特色ある施策を進めるための予算要求をどう考えているのか。

知事 十五年連続で実施してきたマイナス・シーリングを取りやめる。また、重要政策等特別枠を新しい茨城づくりのための「知事特認枠」とし、一般経費のうち政策実現に向けて必要な

東海第二発電所の再稼働と運転期間延長

議員 知事は、東海第二発電所の再稼働と運転期間延長について、一貫して「県民本位の安全対策の推進」と「県民の意見を十分反映し、再稼働の可否を慎重に判断する」と訴えていたが、今後どう取り組んでいくのか。

知事 新規制基準への適合性や延長認可申請に係る安全性の検証結果、原子力防災体制の構築の状況はもとより、地域経済への影響など幅広い観点から、県議会や県民の意見などを十分に踏まえ、県民の安全・安心を最優先に慎重に判断していく。

県北地域の産業振興

議員 県北地域のものづくり産業の活性化を図るためには、いわゆる第四次産業革命の機会を逃さず、IoTやAIなどを積極的に活用すべきと考える。



中小企業の支援に活用される、IoTなど先端設備を完備した模擬スマート工場(県工業技術センター)

今後の県北地域の産業振興にどう取り組むのか。

知事 県北地域の中小企業の経営環境は大変厳しいことから、今後は、IoTやAIなど次世代技術などを活用した新分野への進出の支援や、企業同士の連携などによる競争力向上の支援を強化・拡充していく。

(ほかに、県北地域の医療体制の充実、県職員の意識改革なども質問)



議員 白井 平八郎
自民県政クラブ 結 市 選 出
一 括 方式

知事の基本姿勢

議員 「活力ある、豊かで住みよい県づくり」が着実に整備された前知事在任中の成果は県民からも評価されている。それを土台として、基本理念として掲げた「活力があり、県民が日本一幸せな県」を目指して、挑戦する県政をどう進めていくのか。

知事 本県は東京圏に隣接し、広域交通ネットワークの整備が着実に進むとともに、世界最先端の科学技術の集積や全国屈指の農業など、他県にない強みを有する。本県の強みを生かしつつ、人口減少という困難な課題にひるむことなく向き合い「活

力があり、県民が日本一幸せな県」を基本理念とし、未来に希望の持てる「新しい茨城」づくりに全身全霊で取り組む。

茨城農業のさらなる発展

議員 茨城農業を成長産業として発展させ、もうかる農業を実現することを選挙戦で掲げていたが、さらなる茨城農業の発展に向けて、どう取り組むのか。

知事 経営感覚に優れた経営体の育成に努め、水田農業など土地利型農業では農地集積・集約化を進めていく。施設園芸は、先進国オランダ農業も参考に、農業分野におけるICTなど先進技術の活用を促していく。さらに、国内外での本県農産物の知名度向上と販路拡大を図るなど、もうかる農業の実現に向けて取り組んでいく。

大学入試制度の改革に伴う対応

議員 現行の大学入試センター試験に代わり、大学入学共通テストが導入される大学入試制度改革に対し、どう取り組むのか。

教育長 大学入学者選抜改革等対策事業の実施などにより、新テスト対応の指導法確立と教員の指導力向上を図っていく。

(ほかに、鬼怒川流域河川のハード対策、ヤード条例の周知と自動車盗対策なども質問)



本県の強みを、新しい茨城づくりに(科学技術が集積する筑波研究学園都市)

新規事業や事業拡充の予算要求の上限を撤廃し、県庁全体から常識にとらわれない多くのアイデアが提案されるようにする。

型奨学金制度創設に向けて、給付対象や所要財源の確保などを幅広く議論し、検討していく。

茨城県給付型奨学金制度の創設

議員 子どもたちの勉学と社会貢献の意欲を喚起しながら、茨城出身の本格的人材の輩出と地域貢献を誘導する「茨城県給付型奨学金」を創設すべきと考えられているが、所見は。

知事 奨学金制度を通して茨城の発展を支える人材を育成し、確保するといった視点は大変重要と認識している。若者の定住促進などによる地方創生といった視点に立ち、茨城独自の給付

型奨学金制度創設に向けて、給付対象や所要財源の確保などを幅広く議論し、検討していく。

東海第二発電所の最大二十年延長と再稼働

議員 東海第二発電所の二十年延長と再稼働について、毎年県が行う県政世論調査の設問に取り上げて県民の声を聞き、知事の総合的な判断を求めたいと思うが、所見は。

知事 再稼働について、県民の視点でしっかりと議論していくことが必要と考えている。東海第二発電所の安全性や必要性などの県民の具体的な問題意識を的確に把握していくことが重要であることから、その方法につ



茨城独自の給付型奨学金制度の創設を

県議会を傍聴しませんか

本会議は、県議会議事堂5階の受付で住所と氏名を記入すると傍聴できますので、ぜひお越しください。
また、児童および乳幼児連れの方は、県議会議事堂1階の議会PRコーナーと5階の傍聴者ロビーおよび行政棟2階の県政シアターで本会議の中継をご覧いただけます。
なお、授乳室やおむつ替えスペースをご希望の方には部屋をご用意いたしますので、職員にお気軽に声を掛けください。
その他、手話通訳や委員会の傍聴など詳細については、県議会事務局議事課にお問い合わせください。



お問い合わせ先 議事課 電話 029-301-5634

※【IoT】…さまざまなモノがインターネットを通じて接続されること。一般的に「モノのインターネット」と訳される。
※【AI】…人工知能。人間の脳が行っている知的な作業をコンピュータで模倣したソフトウェアやシステム。